

## ○大山地域上下水道事業に関するタウンミーティング議事録

日 時：令和7年10月18日（土）

午後2時～3時30分

場 所：大山会館

出席者：24人

### 【上下水道事業管理者からの説明】

#### 【意見交換会】

・水道事業と下水道事業のコストを見てみると、人件費が結構入っていますが、これは職員の人件費ですか。それとも委託している業者の人件費ですか。

（上下水道事業管理者）

上下水道局に配属された職員全員の人件費です。委託業者の人件費は、この中に入っていません。

・人口を増やすために、市として対策が必要だと思う。

（上下水道事業管理者）

人口増加のための対策というのは、これまでも国と地方でさまざまな取り組みが行われてきました。例えば子育て世帯への児童手当の拡充だったり、ワークライフバランスを重視する社会への変革などが挙げられますが、人口減少への歯止めが一向にかからない状況にあることはご存じのとおりです。

富山市では現在、人口減少に対するプロジェクトチームを発足し、全庁を挙げて人口減少を少しでも緩やかにするための対策を検討しているところです。

一方、人口が減っていく中で、これからも上下水道料金の改定を行い続けること

で、今の上下水道システムを維持していけるのかという問題もあります。人口減少が続けば、一人あたりの負担額も増えることになります。

過疎化が進む地域で、古い下水道管を全部更新するときに、どれだけ投資できるのか、例えば合併処理浄化槽に切り替えして、それを市が公的な補助をするなど、方法を考える必要があります。

令和6年能登半島地震で、下水道施設が壊滅的な被害を受けた珠洲市では、下水道管を整備し直すのではなく、各家庭に合併処理浄化槽を整備しています。

富山市でも今は利用者の方に使用料をいただいて、下水道を維持していますが、例えば人口が減っている地域では、下水道から合併処理浄化槽への転換を図ることで、上下水道の資産をできるだけ少なくしていく、そうすることで料金改定の値上げ幅も抑えられます。今すぐそのようなことはできませんが、将来的にはそのようなことも考えていかなければならないと思います。

その時には、このタウンミーティングのように、市民の皆さんと意見交換や、ワークショップを重ねながら、この地域は今後どうやってこの上下水道システムを維持するのか、更新するのか別の方法に切り替えるのか、ということを皆さんと決めていきたいと考えているところであります。

・今後更新していく配水管などは耐震管になっていくのでしょうか。

(上下水道局理事)

今後更新していく水道管については、全て耐震性を有したものになっています。また、下水道施設についても同様に、耐震化されたものを整備しています。加えて、大山地域で大きな被害があることはあまり想定されませんが、ゲリラ豪雨などで、水道や下水道施設が浸水により機能を失うということもあるので、今は耐震化にあわせて、耐水化も整備を行っています。

大山地域の水道の拠点施設として上滝浄水場を再構築していますが、これらも全て耐震性を有するものに更新しています

・検針業務を2か月に1回されていますが、毎月検針していただければ、使用水量が少なくなり、料金をもっと安くなるのではないかと思います、いかがでしょうか。

(料金課長)

料金の計算方法に当てはめると、2か月に1回の検針でも、毎月の検針でも料金は変わりません。

お支払い方法を口座振替にいただくと、毎月払いにすることもできますのでご検討ください。

※発言の一部を整理して掲載しています。(上下水道局経営管理課)